

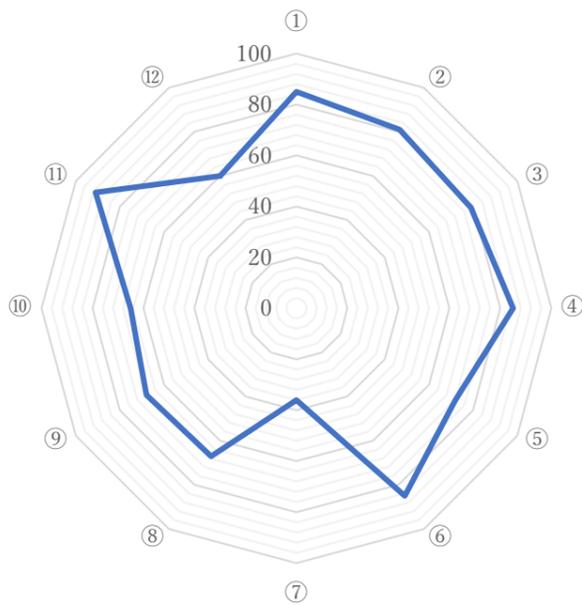
自己評価集計結果

<評価方法>

評価を4段階とし、項目を①~⑫に分け、それぞれの合計点をだす。

下記の集計表及びレーダーチャートは、回答した保育士の点数の平均点を表示している。

		R2 12月 回答数 8名	R3 2月 回答数 名
評 価		平均点	平均点
I 保育の基本的 理念と実 践に係る観点	① 子どもの最善の利益の考慮（6項目）	85	
	② 子どもの理解（9項目）	81	
	③ 保育の環境（人・物・場）の構成（7項目）	79	
	④ 保育士等の子どもへの関わり （援助・行動・言語・位置・タイミング・配慮等）（7項目）	85	
	⑤ 育ちの見通しに基づく保育（8項目）	72	
II 家庭及び地域社会との連携や 子育て支援に係る観点	⑥ 入所する子どもの家庭との連携と子育て支援（8項目）	85	
	⑦ 地域の保護者等に対する子育て支援（4項目）	36	
	⑧ 地域における連携・交流（4項目）	67	
III 保育の実施運営・体制全般 に係る観点	⑨ 組織としての基盤の整備（8項目）	68	
	⑩ 社会的責任の遂行（3項目）	65	
	⑪ 健康及び安全の管理（12項目）	91	
	⑫ 職員の資質向上（6項目）	60	



まとめ

全体としては、自己評価集計後のヒアリングで、各自の項目の捉え方に違いがあり回答にばらつきがあることがわかった。また常勤職員、非常勤職員の集計結果にも差がみられ、非常勤職員は職員会議や研修に参加が少ないこともあるため認識不足から無回答のところもあり、課題が明確となった。

項目ごとに見ていくと⑤「育ちの見通しに基づく保育」は指導計画を作成する職員は高得点であったが、非常勤職員の点数が低いことから、子どもの発達過程の理解し、計画に基づく保育を全職員が認識し実践できるような機会を作る必要がある。⑦「地域の保護者等に対する子育て支援」については、コロナ禍のなか外部の受け入れは慎重に進めていく必要があるため、電話での相談や情報提供など出来ることを進めていくようにする。⑩「社会的責任の遂行」についても非常勤職員の認識不足が浮き彫りとなった。⑫「職員の資質向上」は第三者評価の取り組みがなされていないため、今後の課題とする。